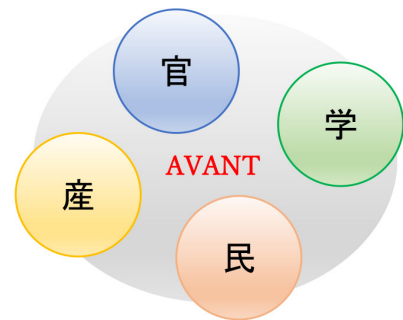




アバンアソシエイツ（以下、アバン）が日々取り組んでいるプロジェクトでは、社会課題の解決と新たな事業創出を同時に実現することを目的としながら、あらゆる場面で自治体（官）、企業（産）、大学（学）、地域（民）やグループ会社など様々な形の「連携」を模索しつつ推進している。本特集では、全国各地で展開している具体的な実践事例を通して、その意義と展開を紹介する。



【自治体との連携】産学官の連携で描く、菊陽町の「知の集積エリア」（菊陽町）

アバンは、熊本県菊陽町が推進する「知の集積エリア」の具体化に向け、産学官の多様な主体を結ぶ連携のハブとして業務を展開している。本業務は、半導体産業の集積という地域特性を活かし、行政、大学・研究機関、企業が相互に関わり合いながら、次世代の人材育成と知的交流を促す拠点形成を目的とする。



半導体の歴史と未来を学び、世界の研究者と繋がる交流拠点「半導体ミュージアム」（イメージパース）

現在、エリアの象徴となる「半導体ミュージアム（2031年春完成予定）」の構想を推進中だ。ここでは、半導体技術の歴史から製造工程、広がる未来を遊びながら体験できる「エデュテインメント機能」を展開する。更には、大学や研究機関、企業やスタートアップ等を隣接させて多様な世代の学びの場と世界で活躍する研究者とつながる交流の場を創出する。

まちびらきに先駆け、国内外の大学・研究者と連携したフォーラムを開催するなど、教育研究機能の誘致に向けた機運醸成も図ってきた。また、熊本の産業界や協議会との協働により、地元のニーズを反映した展示の検討を進めている。こうした重層的な連携により、本プロジェクトは単なるまちづくりを超え、地域と世界をつなぐ「知の共創基盤」として着実に歩みを進めている。

Key players in collaboration

連携で編む菊陽町の未来 計画本部 主任 鹿毛 瑛文

菊陽町を舞台に大学・企業・行政をつなぐまちづくりに取り組んでいます。半導体産業の集積という強みを生かし、研究者や高度人材を惹きつける新産業の拠点には何が必要か。その中核として、研究成果を社会に開き、多様な人が行き交う「ミュージアム機能」を備えた複合施設を構想中です。

町と伴走しながら、大学へのヒアリングや先進事例の視察、フォーラム開催を重ねる中で、当初の小さな構想は、企業や県をも巻き込んだ大きな連携の輪へと広がりつつあります。私は、施設をつくること自体が目的ではなく、人と人の出会いの「きっかけ」を生み、その輪を育て持続させる「つないでつむぐ」プロセスこそが、連携によるまちづくりの本質だと考えています。



【企業との連携】地域資源（テナント・空港関連企業等）との連携によるエリアマネジメント（羽田）

「羽田イノベーションシティ（HICity）スクール 2025」は、羽田みらい開発が主催し、アバンがエリアマネジメント委員会事務局として全体統括を担う、官民学地域連携の体験学習事業である。対象である大田区内の小・中学生及びその保護者に対して、羽田空港およびHICityを舞台として、地域の幅広い分野（先端技術、医療、航空、伝統文化等）を横断した学びの機会を創出した。

特徴は、空港関連事業者、HICity入居企業、大学、地域団体等の多数の主体と連携し、それぞれの専門性を活かしたコンテンツの多様性である。アバンは、各協力企業等との調整役として、企画設計から広報・運営までを一体的にマネジメントすることで、単独では実現困難な事業を実現し、毎回抽選必至のイベントとなっている。

本事業は「羽田空港ツアー」と「HICity ツアー」のパッケージツアーであり、例として「羽田空港制限区域バスツアー×HICity ホテルでの仕事体験」、「機体工場見学×羽田寄席」、「空港の仕事体験×ねじ工場見学」といった、分野の異なるコンテンツを通じて、多角的な「学び、体験」の機会を生み出している点も特筆される。本事業はHICityのコンセプトである「この街で過ごす、すべての人にイノベーションを。」の下、地域資源である多様な事業主体と連携し、エリア価値向上を目指す試みとして4年目を迎える。

主催：羽田みらい開発㈱	
後援：大田区	
全体統括：羽田みらい開発㈱ エリアマネジメント委員会事務局 (㈱アバンアソシエイツ)	
羽田旅客サービス㈱（申込・抽選・当日受付等）	
HICityツアー連携先	羽田空港ツアー連携先
㈱ミルボン	東京モノレール㈱
㈱日立ハイテク	㈱AIRDO
藤田医科大学 羽田クリニック	スカイマーク㈱
キッズプログラミング教室さくらぼ	㈱スターフライヤー
ANAシステムズ㈱	全日本空輸㈱
㈱京急イーエックスイン	㈱ソラドエア
ホテルメトロポリタン 羽田	日本航空㈱
㈱桂川精螺製作所（㈱きらぼし銀行※）	羽田旅客サービス㈱
中央大学陸上競技部（㈱きらぼし銀行※）	
多摩大学 樋笠ゼミ	
大田・品川まちめぐりガイドの会	
林家はな平、丸一小助・小時、立川公四郎	
大田区太鼓連盟	
中村橋吾	

※㈱きらぼし銀行の協力により実施。

HICity スクール 2025 の体制図



活動報告はコチラから



手術支援ロボット hinotori の操作体験
(藤田医科大学 羽田クリニック内)



日本航空株式会社の格納庫見学

Key players in collaboration

企業と人をつなげる羽田のエリマネ 計画本部 副部長 藤田 暁生

施設開業時（2020年）より縁あって地元大田区のHICityのエリアマネジメントを担当。官民連携の枠組みのもと、大田区、テナント、空港関連企業、地域団体、大学など多様な主体を結び、HICity スクールを始めとした様々な取組みを実践しています。

一般向けのイベントは施設の認知度向上や、参加者や連携先のニーズを満たすだけでなく、共創を通じて地域の関係者や地域の方々とのネットワークを育む機会ととらえています。また、官民連携のパートナーである大田区や地域の方々との連携では、時に区民としての視線を交え、取組みの目的や成果を丁寧に共有することで、良好な関係のもと協働を円滑に進められるように努めています。

今後も地域の資源を活かし、近い将来社会の中心となる子どもたちへ胸を張ってバトンを渡せるような、まちづくりへとつなげていきたいです。



【大学との連携】つくばスマートキャンパスプロジェクト（つくば）

アバンは、筑波大学第三エリアを中心としたキャンパス空間の再構築において、多主体連携の窓口として参画している。本プロジェクトは、人流データを活用した「スマートプランニング」と、まちづくり手法である「プレイスメイキング」を組み合わせ、大学が抱える課題の解決を目指す取り組みである。筑波大学ヒューマン・スマートシティ研究機構と鹿島による共同研究として進められ、学生の卒業研究や修士論文のフィールドとしても活用してきた。

アバンは、計画立案や社会実験の実施に向けて、企画・調整役を担い、共創型のスマートプランニングを支えている。特に、利用者である学生の声を反映するため、学生ワークショップを開催し、意見や改善アイデアを収集。大学研究者や鹿島と連携し、それらを整理した上で社会実験へとつなげた。社会実験後も再度ワークショップを開催し、交通流動や滞在行動等の調査結果と併せて分析することで、次年度の実証実験計画へと発展させている。

今後も、大学研究者や学生の研究活動と連携しながら検討と改善を重ね、スマートキャンパスの本格導入を目指していく。



社会実験計画（2025年10月）

駐輪禁止エリア・臨時駐輪場を設けるとともに、様々なテーブル、イス、ベンチ等を配置。GPSやLiDAR等を用いた交通量・駐輪場調査、タイムラプス等を用いた滞留+交流調査、アンケート調査等を行った。



携帯位置情報を用いた滞留分析（結果イメージ）



社会実験前の様子



社会実験の様子



学生ワークショップの様子



LiDARを用いた交通量調査

Key players in collaboration

現場から築く共創のかたち 事業推進部 副部長 永田 乃倫子

つくばと赤坂に関わり、多様な主体をつなぐ「連携」を軸にまちづくりを進めてきました。つくばでは、筑波大学と鹿島による共同研究に加わり、研究者や学生と連携しながら、ワークショップの企画・運営や社会実験を実施してきました。利用者の声を反映した計画を練り、実施後に改めて学生の意見や研究成果を踏まえて改善策を検討することで、学術と実践が循環するPDCAサイクルが生まれていると感じます。一方赤坂では、町会や商店会など地域の方々・行政・鹿島グループ各社と関係を築き、資源循環や防災等の地域課題に、デジタル技術等も活用し取り組んでいます。共に考え、進めていく姿勢を大切にしています。

両地域での活動を通じて、立場や専門の異なる人たちと一緒に考え、形にしていく大切さを実感してきました。関わる皆さんから多くを学びながら、一つひとつの連携が持続的な価値につながることを願い、取り組みを進めています。



